

【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動支援】
アースデイ奈良でのボランティア活動 活動報告書

国語教育専修 2 回生 吉岡 優来

1. **実施日** 2023 年 4 月 22 日 (土)
2. **場所** 奈良公園 登大路園地
3. **参加者** 教育学専修 4 回生 木下 結等
特別支援教育専修 2 回生 神吉 優利奈、才田 優佳
国語教育専修 2 回生 田中 愛花、吉岡 優来
社会科教育専修 2 回生 木幡 美幸、横井 琴音
英語教育専修 4 回生 川口 綾菜、福西 隆生、3 回生 苗代 昇妥
書道教育専修 3 回生 栗垣 実咲

4. 活動の概要

奈良公園登大路園地で開催された、アースデイ奈良というイベントでボランティア活動を行った。このイベントでは、世界中で地球のことを思い行動する日である「アースデイ」が毎日続くようにという想いで毎年開かれている。70 を超えるブース出展、ステージ発表、リユース食器・リサイクルなどの活動などが催され、学生はそれらの計画及び運営に携わった。

5. 参加学生の学び・感想

アースデイ奈良に参加して、今回はブース誘導やリユース食器の受付、SNS での配信や撮影、会場の見回りなど実に多くの活動をさせていただいた。これらの活動を通して学んだことを 2 つ挙げる。1 つ目はアースデイのイベントの素晴らしさについてである。アースデイ奈良は様々な世代の人たちが一堂に集まり環境に関して考えるイベントであるため自分自身大変いい影響を受けることが出来た。2 つ目はアースデイが抱える問題についてである。環境イベントにも関わらずプラスチックストローを配っているブースもあり、イベントの趣旨を全員にしっかりと伝えていくことも大切であると感じた。多くの学びがあったアースデイ奈良にこれからも参加したいと感じた。

(教育学専修 4 回生 木下 結等)

私は今回初めてアースデイに参加し、ステージ司会をさせていただいた。ステージ司会を担当して学んだことは、ただ司会をするという意識だけではなく、ステージに立つ人や観客のことも考えて司会をすることが大事だということだ。ステージに立つ人にとっては、紹介や発表前の繋ぐ言葉を司会がすることでステージに立ちやすくなり、観客に向けて「次は何時からこんなことをしますよ」という一言があれば流れが分かりやすくなると思った。司会として大事にすべきことを知ることが出来たと思う。

(特別支援教育専修 2 回生 神吉優利奈)

私は、午前中は本部で受付をし、午後はリユース食器の返却を担当させていただいた。

本部での受付で学んだことは主に 2 つある。1 つ目は、受付に行けないお店に対して、個別に対応することの大切さである。そして 2 つ目は、外国人や老若男女と対応できるコミュニケーション能力が必要であることだ。

また午後のリユース食器では、食器の返却と金銭の返却を分担し他人と協力して働くことを学んだ。説明が十分になかったり、臨機応変に対応する必要があったりと難しい状況のなか、みんなで協力しながら対応できた。

(特別支援教育専修2回生 才田 優佳)

私は、今回のアースデイで学んだことが2つある。1つ目は、コミュニケーション能力の大切さである。アースデイを含むボランティア活動は、初対面の人と円滑に物事を進める必要がある。挨拶と笑顔とポジティブな発言が大切だと思った。

2つ目は、経験を積むことの必要性である。ステージで奈良市長の中川市長と話をさせていただいたが、「大人に物申したいことは？」という質問を投げかけられた。予想外で、とても驚いたが、なんとか答えることができた。それは、大学で沢山の経験をさせていただいたからだと思う。これからは、自身の成長と共に後輩が経験のできる機会をたくさんつくりたい。(国語教育専修2回生 田中 愛花)



ステージ発表の様子

私はアースデイ奈良に参加し、ステージ司会をさせていただいた。そこで、話し手と聞き手が一体になることの大切さ学んだ。初めは、司会原稿ばかりに目が行き、観客の方々の反応を見ていなかった。しかし、顔をあげ反応をみながら話すことで、観客の方々の傾きや笑顔が見え、原稿を棒読みするのではなく、問いかけや反応にあった言い換えもすることができた。そうすることで、より全体の雰囲気も良くなったように感じた。この「一体となる」ことを今後の模擬授業やESDの活動に活かしていきたいと思う。(国語教育専修2回生 吉岡 優来)

アースデイで学んだことはたくさんあるが、一番大きかったものは伝える気持ちについてだ。

私はアースデイで司会をさせていただいた。初めの方はマイクを使っているのにも関わらず、声が全く会場に通らなかった。その後、他の人の司会の様子を見たりして、始めの私に足りなかったものに気が付いた。それは普段話す時よりもはきはきと話すという意識や、観客は少なくとも目の前にいる人に伝えるという意識である。意識を変えたことにより、声は初めより通るようになった。伝えようと意識して話すことは大切だと実感した。(社会科教育専修2回生 木幡 美幸)

私はアースデイで沢山のことを学んだ。特に、私は奈良公園でのネイチャーゲームを主に担当させていただく中で、自然環境を題材にした授業作りについて多くを学んだと共に、子供との関わり方について多く学ぶことが出来た。限られた時間の中での打ち解け方や、大人数の場合への対処が今後の課題だと考えた。

また、リユース食器も担当させていただいたが、普段私たちがどれだけ使い捨てをしているかを実感することが出来た。そのため、より一層環境に優しくすることを心がけようと考えた。

(社会科教育専修2回生 横井 琴音)

参加して学んだことを2点書く。

1点目は、人のもつ力の大きさだ。イベントの開催中はもちろん準備や片付けでも、出店者や参加者といった立場に囚われず、協力し合う人々の姿が多く見られた。このような協力や熱意があったからこ

そ、ここまで大規模なイベントが実現できたのだと思う。

2点目は、多様な人との交流の重要さだ。イベントには様々な年代・国籍の人が来ており、環境問題に強い関心のある人も偶然立ち寄っただけの人もいた。様々な人が互いに刺激を与え合うことで、アースデイの輪が奈良から日本、世界へと広がっていくのだと感じた。

(英語教育専修4回生 川口 綾菜)

私はリユース食器のレンタル受付に携わった。そこで私は一人では対応できていなかったところに気付き、互いに補い合うことで成し遂げることの大切さを学んだ。特に今年度は、海外の方々と交流する機会が多く、恐る恐る話しかけてきた人たちは私が英語で話しかけると表情を和らげてくれた。そのとき、周りの仲間たちは自分が英語で話している間に食器やおつりの準備をしてくれており、全員で協力することでスムーズな対応ができた。今回は自分が初動を担ったが、周囲を見て僕のできることを全力で生かしてくれた仲間たちのようになりたい。

(英語教育専修4回生 福西 隆生)

私は、事前の企画と当日の実施の両方に携わった。企画を作る途中では、様々な意見を取り入れながら話を進め、多様な考えをまとめる難しさや重要性を実感した。多様な意見を踏まえてイベントを作り上げていくうえで、意見を出し合うことは同じ目的に向かって進めていくための下地になることが分かった。当日は、色々な人の環境に関連する取り組みを知ることができた。より一層、環境を守る取り組みを行っていきたいと考えた。

(英語教育専修3回生 苗代 昇妥)

私は昨年に引き続きステージの司会を務めた。

私は人が集まり、大勢の人と盛り上がるということの良さを実感した。大学生活は、コロナ禍でそのような大勢の人と何かをしたり盛り上がったりすることができなかった。今回のアースデイでたくさんの人がステージを見ており、出演者の方の呼びかけに応えるように大勢の観客が湧く様子は、ステージ前から司会として見て、とても胸を打たれる光景であった。人と繋がることの素晴らしさ、素敵さを実感できたアースデイだった。

(書道教育専修3回生 栗垣 実咲)



司会の様子



全体の様子